

そらこめ通信 No.37 2013.08発行

日頃より弊社の米をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。心よりお礼を申し上げます。
7月初旬より、暖かい…というよりは暑い日が続いています。特に、ここ沼田町がある北空知地区は例年に比べて雨が少ないようで、稲の方は比較的順調にきていますが、畑作物を手掛けている人たちは一様に苦勞をされているのではないかと思います。7月下旬になり、ようやく少量の雨が降った程度ですが、まだまとまった雨は降っていません。北海道内でも道東地方などでは、まれに低温の日があったり、大雨が降ったりと、それはそれで大変な苦勞をされていることと思います。北海道は本当に広いですね。試行錯誤を重ねた先人の知恵で、道内各所において、それぞれの地区の気候に合った作物の栽培を奨励するやり方は実に理にかなった方法だと思います。

先日、北陸や山陰地方、特に山口県などでの大雨災害のニュースが流れました。考えるに、このような、ある地区に集中するかのごとく「ピンポイント」での天候異常は近年のトレンドになりつつあるようで、我々もそうした事態への備えを常日頃からしておくべきだと改めて考えさせられました。

さて、7月中旬から我々の圃場では一斉に出穂(しゅっすい)の時期を迎えました。茎の中で稲穂の赤ちゃんともいうべき幼穂(ようすい)が生まれてから25日程度経ち、順調に育った稲穂の赤ちゃんが茎の外に顔を出すことを出穂といえます。出穂と同時にそれぞれの稲穂からは白い「おしべ」が顔を出し、幼い籾の中にある「めしべ」に受粉します。この後、40日～50日ほどで収穫を迎えるわけです。なんだか人間の一生とよく似ていますね。そう考えると可愛さが一層募ります。



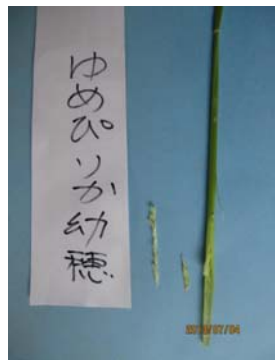
水神宮祭(7月3日)



鹿によるソバ畑の食害(7月5日)



出穂が始まりました(7月18日)



「ゆめびりか」の幼穂(7月4日)

幼穂(ようすい)とは稲穂の赤ちゃんのことです。ある時期になると稲の茎の中に形成されます。幼穂が最初に形成される時期を幼穂形成期といい、形成期から25日～30日後に出穂(しゅっすい)の時期を迎えます。上の写真は稲の茎の下の部分をカッターで裂き、中の幼穂を取り出したところ。取り出した幼穂の長さでおおよその形成期が判ります。幼穂形成期から出穂に至る期間は冷害などに特に気をつけなければいけません。



「ななつぼし」の幼穂(7月4日)



ソバの花(7月24日)



ソバ畑全景です(7月24日)



各圃場での出穂(しゅっすい)の盛りを迎えました(7月24日)～出穂とは茎の中から稲穂が顔を出すこと



新品種「きたくりん」(左端)、「ゆきさやか」(中)、「ゆきがすみ」(右端)の各圃場(7月24日撮影)



ダリアの栽培ハウス～花の種類は「かまくら」(左端)、「黒蝶」(中)、「アイ」(右端)(7月24日撮影)



シネンシスの栽培ハウス～「カナリーダイヤモンド」(左)「クリアダイヤモンド」(中) 「ななつぼし」の圃場(7月29日)

育苗ハウスの空きを利用して、花卉の栽培を行っています。栽培する花はダリアとシネンシスです。メキシコの国花でもあるダリアの花言葉は「威厳」「華麗」だそうです。他には「移り気」という花言葉もあるとか…。シネンシスの花言葉は「高貴」「消えぬ想い」「永遠の愛」だそうです。プレゼントならシネンシスが無難かも知れませぬ(笑)。

これからも安全で美味しいお米の生産に努めますので、引き続きご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

インターネットで美味しいお米!

(株)空知こめ工房 ホームページ
<http://www.sorachi-kome.jp/>
ブログ「生産日誌」更新中です